

## ■開催内容

1. 開 会
2. あいさつ
  - ① 発起人代表あいさつ
  - ② 市長あいさつ
3. 市民協働による地域づくり  
(千葉工業大学 鎌田元弘教授)
4. 地域づくり協議会の概要説明(南房総市)
5. 懇談会形式での話し合い(ワークショップ)
6. その他  
・次回会議について
7. 閉 会



発起人代表あいさつ  
: 鈴木行政連絡委員会 会長



## ■会議の概要

発起人代表及び市長あいさつの後、千葉工業大学 鎌田教授により、市民協働による地域づくりと題した講話が行われた。その後、市より地域づくり協議会の概要を説明した。

5. 懇談会形式での話し合いでは、地域の宝について話し合う班(1・2班)と地域の課題について話し合う班(3班)に分かれワークショップ形式での話し合いが行われた。

### ●市長あいさつ

- ・市の重要施策として、市民の皆さんと協働のまちづくりを進めている。
- ・地域づくり協議会をつくる以前にも、行政区を始め自発的な活動があったが、その活動も近年、縮小傾向にある。
- ・地域をよくする原動力は、市民力。行政も市民の方といっしょになって、柔軟性のある地域づくりの機能をつくっていきたい。



### ●市民協働による地域づくり(鎌田教授)

- ・全国的な地方の課題として

担い手の不足

コミュニティの崩壊

少子高齢化

地域のよさを活かしきれない

などがある。

日 時：平成 22 年 8 月 10 日 午前 9 時 30 分から午後 0 時 20 分  
場 所：丸山公民館 大会議室  
参加者：18 名（別紙 参加者名簿のとおり）

- ・行政としては、市民のニーズに対応できない、予算や人材を投入できないといった課題がある。
- ・地方分権改革でいろいろなことが行われているが、その目玉が『協働』
- ・協働とは、

住んでいてよかったと思える南房総市を実現するために  
お互いの特性や能力を持ち寄って、連携協力すること。

⇒これからは、住民が同じ方向を見るようにすることは、もちろん。

違う方向を見ている住民も活かすことが必要になってきた。

基本として…自助・共助・公助を考えてほしい。行政じゃなくてはできないことは  
意外と少ない。



・協働の効果

一番は、参加していて喜びや感動があること。

参加者の喜びや感動を積み重ねた結果。行政改革につながる。

自分たちの集落や、地区内の共同作業だけでなく、  
視野を広げて、南房総市全体の地域課題の解決のため  
力を合わせて『協働』で解決しよう！

## まとめ

- ・市民と市民が連携して事業を行うことがポイント！
- ・これまでの行政区の活動に加え、市民の持ち味を活かした取り組みを！
- ・従来の会議形式では、みんなの意見が出ない。  
現場を見て、みんなで話し合い、共有していくことで、意外な発見やアイデアが生まれる。

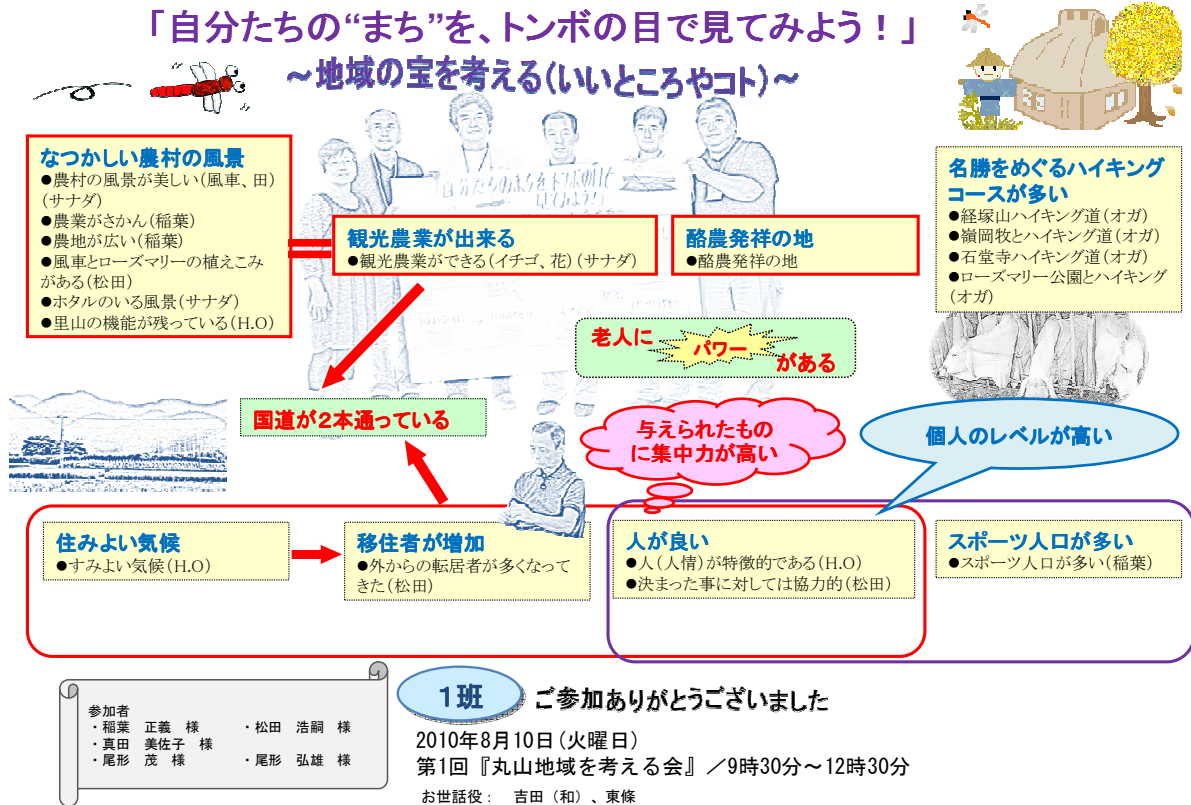
得意分野を活かすというNPOの  
特性や、活動分野を参考に

日時：平成22年8月10日 午前9時30分から午後0時20分  
場所：丸山公民館 大会議室  
参加者：18名（別紙 参加者名簿のとおり）

●懇談会形式での話し合い(ワークショップ)

◆1班

【模造紙の内容】



【発表】



・丸山は、農業中心。  
 ・最近、ほたるが発生するなど、懐かしい農村の風景があり、農業が盛ん。  
 ・里山や林道も整っている。  
 ・老人のパワーや、名所・史跡もありハイキングに活かされている。  
 ・人がよいことがすべてのベースになっている。(最初は人見知りするが、付き合いやすい人が多い)

【鎌田教授からのコメント】

- ・ワークショップは、ラベルに上がってきたことだけでなく、話し合っている最中のプロセスも大事。
- ・この班は、支援員ががんばった分、話し合いの時間が出来た。その時に話し合われたことも模造紙の中に、載せられるととってもよかった。

日時：平成22年8月10日 午前9時30分から午後0時20分  
 場所：丸山公民館 大会議室  
 参加者：18名(別紙 参加者名簿のとおり)

◆2班

【模造紙の内容】

自分たちのまちを、トンボの目で見よう！  
～地域の”宝”（いいところやコト）を考える～

**2班** 参加者：鈴木(明)、行縄、根本、鈴木(嘉)、尾形(明)、金井  
お世話役：結縄、平野

**景観**

- きれいな砂浜と河口の景観**
  - 狭いながらも海があり砂浜がある地区(明)
  - きれいな砂浜がある(Ake)
  - 手つかずで残っている三嶋海岸と丸山川の河口風景(根本)
- 丸山のシンボル 風車とローズマリー公園**
  - 丸山地区の認知度 ローズマリー公園 風車とローズマリー(Ake)
  - 風車がすてき(ヒ)
  - ローズマリー公園がある(ヒ)
- 歩きやすい里山がある**
  - 登りやすい低山と林道が多くあること(根本)
  - 里山がある ローズマリー公園(行縄)
  - 人が入っていける里山がある(Ake)
- 自然環境が良好**
  - 台風や災害の被害があまり無い地区である(明)
  - 収入源があれば生活最適暮らしやすい(根本)
- シルバークワータの活用できる場所づくり**
  - 元気で生涯現役なお年寄りが多い(ゆ)
  - リタイヤした人材の活用 協力ができるシステムづくりができれば(金井)
  - 知性とか教養とか、古くからの住民の方がすばらしいと感じています(根本)
  - よそからの流入人口が多い(鈴木)

**産業**

- 歴史と文化財の石堂寺**
  - 石堂寺を活かしていく(金井)
- おいしいお米・多品種の野菜・花がある**
  - 多品種の農業生産品(野菜・花がある)(Ake)
  - おいしいお米がたくさんとれる(ゆ)
  - 各地区ごとで商品づくりをしている(Ake)
- 田園風景を活かそう！ 大井の棚田など**
  - 大井地区 棚田()
  - 見ていると心が落ち着く田園風景(ゆ)
  - 冬枯れ(かれすすき)の耕作放棄地が大好き(根本)
- 温暖な地区で住みよい所**
  - 温暖な地区で住みよいところである(明)
- 国道が2本ある**
  - 国道が2本も通っている(鈴木)
- 丸小学校あと地を活かそう！**
  - 丸小あと地の再活用により活性かをめざす(金井)
- 新しく立派な中学校**
  - 新しい中学校が立派(ヒ)

2010.8.10 第1回 丸山地域づくりを考える会

【発表】



- ・話し合われたことを大きく分けると、景観、人材、産業という分類。結果として、丸山は、すばらしい。
- ・産業面では、いろいろな野菜やお花がとれるので、景観農業なども考えられるのでは？
- ・田園風景、これからできる廃校、歴史と文化の石堂寺、国道410号などを活かしていきたい。


【鎌田教授からのコメント】

- ・くりの言葉をみんなでやりとりをしながら考えていたのがとてもよかった。
- ・「おいしい」とか「きれい」「新しく立派な」とか思いのこもった、くりの言葉になっていた。
- ・みんなで考え、議論できていた班だと思ふ。宝を見つけるだけでなく、その宝をどう磨いていくかまで、話されていた。

日時：平成22年8月10日 午前9時30分から午後0時20分  
場所：丸山公民館 大会議室  
参加者：18名（別紙 参加者名簿のとおり）

◆3班

【模造紙の内容】

「自分たちのまちを トンボの目で見よう！」  
 ～ 地域の課題(ちょっと困った、これから不安)を考える ～  3班

ちょっとではない！！

観光の面から考えたい  
 (地域のポイントとなる場所)  
 ・地域のポイントとなる場所のつながりが少ない。  
 (観光という面での考慮)

地域に於いて住民相互の  
 交換  
 (意見)の機会が少ない。  
 ・本音での意見交換がしづらい  
 住民どうしの助け合いがない

川が便利なゴミ箱になっ  
 ている  
 ・川が便利なゴミ箱になっている  
 (K)  
 美化精神が無い  
 モラルが無い

高齢者の身の回りの管理や  
 地域の情報、よりどころがない  
 ・生垣の管理高齢者(K)  
 ・少子高齢化のカバー(補足)  
 サポートの進行度?(追いつくか?)(KH)  
 ・高齢者世帯が多くなってきている(H)  
 ・高齢者の憩いの場は考えられないか(利)  
 ・地区内での情報が共有できない(渡登)  
 ・どこへ聞いたら良いのか?わからないが  
 ・みどり豊か?雑草だらけ

住民の交通面が少しでも  
 便利になるように  
 ・高齢者の買い物、通院、役所への  
 諸届等の足の不便は解決してあげら  
 れないか(利)  
 ・公共交通の実情に沿ったあり方  
 ・交通の便が良くない  
 ・市内巡回バスのコースに違いこと  
 (老人になったとき心配の種)(和)  
 ・交通の便が悪い(H)  
 市民バスの路線の拡大  
 お金がかかる。

商店が少ない  
 ・商店が少ない(遠い)(H)

中心となる所がない  
 丸山地域には中心とな  
 るところがない

経営が維持できない

住民の働く場や機会が少ない  
 ・少額でも何らかの収入  
 になる方法の(生きがい)方向は(KH)  
 ・若者の働く場所が少ない  
 雇用の場が少ない。

近くに医院がほしい  
 ・医院がほしい

第1回 丸山地域づくりを考える会

参加者 : 和田(豊) 渡辺(勝) 平井  
 様澤 渡邊(利) 加藤 渡辺(登)  
 お世話役 : 山岸 和田(美)

【発表】



- ・悪いところを話し合うと聞いて、難しいと思ったが、切実な意見がたくさん出てきた。
- ・高齢者の身の回りの管理や、地域の情報、拠り所がない。
- ・中心となるところ、商店や病院が少ないということも課題。
- ・そんな中、住民の交通面が少しでも便利になるように、また、観光面からも考えていきたい。
- ・住民同士が、本音で話し合える、集まる場がない、広報紙などの言葉が難しいが気軽に聞けるところがないことも課題。
- ・川が便利なゴミ箱となっている、若者の働く場や、高齢者の生きが対策としての働き場がないといった意見もあった。

【鎌田教授からのコメント】

- ・支援員が補佐役に徹し、地域の方々が、立ち上がって話し合いをしていた。
- ・くくりの言葉を参加者がまとめ上げていったところが、感動的によかった。
- ・地域の課題は、深刻になりがちだが、よく話し合われていた。課題をどうしていくかを、絞ろうとしていたところがすばらしい。自分たちで、できることをどうしていくか。課題に取り組もうとしていた姿勢がすばらしいと感じました。

日時：平成22年8月10日 午前9時30分から午後0時20分  
 場所：丸山公民館 大会議室  
 参加者：18名(別紙 参加者名簿のとおり)

